

2013年度 経済同友会「政治改革委員会」報告書  
「政治家に必要な能力と、その育成を巡る論点整理」(要旨)

< I 政治家人材のリクルート >

(1) 政党の候補者選び

[今後議論の方向性]：政治家供給源を多様化すべきではないか。その為、オープンかつ競争的に候補者選考が成されるべきではないか。また候補者が所属政党の理念・基本政策を信奉していることを政党は保証すべきではないか。

[今後議論を深めたい論点]：①綱領とマニフェストの策定・明示、②党员活動歴・党への貢献度の考慮、③資質ある人材を選び抜くシステム構築、④政党は政治家候補人材の幅広い裾野整備（政務党员[仮称]の検討等）

(2) 選挙のあり方

[今後議論の方向性]：参入障壁を低減し、多様な人材が選挙に出られるようにすべきではないか。一方で立候補したいという志高い人材は、企業も含め社会全体で支援してやるべきではないか。

[今後議論を深めたい論点]：①選挙運動規制見直し（法定選挙運動費用引き下げ、戸別訪問解禁等）、②企業・社会としての公職立候補者の支援（社員が候補した場合の「特別休職/特別休暇」制度普及等）

< II 国会議員の能力とキャリアパス >

国会議員に求めたい能力：「政策能力」「コミュニケーション/プレゼン能力」「行政官としての能力」

(1) 国会議員（一般）のレベルアップ

[今後議論の方向性]：政策に関する討論・審議の場を国会に移す一方、国会運営の無駄も削減すべきではないか。

[今後議論を深めたい論点]：①「逐条審議」で法案修正活性化、②議員立法活性化、③国会に新たな「議員教育の場」創設、④国会運営の合理化・柔軟化（採決で期日前投票等導入、定足数緩和等）

(2) 「行政府」役職者の育成・選抜

[今後議論の方向性]：行政府役職者になるための政党としての人材マネジメントが必要ではないか。「当選回数主義」と決別し、少ない当選回数でも、能力があれば相応の役職に就けるべきではないか。

[今後議論を深めたい論点]：①企業の「タレント・マネジメント」手法を政党に応用、②「政党人事部」設置検討。③日本版 PPS（議会担当秘書官）導入検討

(3) 国会議員の複線的キャリアパス構築

[今後議論の方向性]：政治の世界も「組織化・分業体制」を目指し、行政府の役職以外にも、政党や国会の場で経験豊富な議員の活躍の場を設けることができるのではないか。

[今後議論を深めたい論点]：①各党が「Talent Management Policy」作成、②国会役職（議長・委員長）の権威と裁量権拡大

< III リーダー人材のあり方 >

[今後議論の方向性]：閣僚任期長期化、党首選任プロセスを改善の一方、リーダー人材が政務に専心できるような配慮も必要になるのではないか。

[今後議論を深めたい論点]：①「一内閣一閣僚」、②国会での大臣拘束緩和等、③日本型「Safe Seat」検討、④党首選挙の改善（選挙期間の長期化等）、⑤党首地位の安定化

< まとめ >

国家・国民のために果たすべき「職務」が先にあり、そこに適合する資質のある人材を厳選して登用する『適務適材』を、政治の世界に実現することが求められているのではないか。